

CP-6-Ⅲ-11	総合薬学演習Ⅱ	第6学年	後期 必修	10単位
担当者	薬剤師教育研究部門（浅井、久保、大野、山内(理)、渡邊（雅））・薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）及び実務実習モデル・コアカリ関連教科担当教員			
一般目標（GIO）	医療の高度化、多様化が進む中で、医療の一翼を担う薬剤師の基本的な資質を身につけるために、薬学教育モデル・コアカリ及び実務実習モデル・コアカリ関連教科全般について、総合的な知識を深め、問題解決能力を修得する。			
到達目標（SBOs）	薬学教育モデル・コアカリ及び実務実習モデル・コアカリ関連教科の範囲（物理、化学、生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務）の重点ポイントについて 1. 基本的知識を列挙できる。 2. 重要な内容を説明できる。 3. 与えられた課題に対する適切な解決策を提案できる。			
受講心得・準備学習等	演習問題を解く際に、その問題に必要な基礎知識を理解し確実に憶えるとともに、解答に至る考え方をしっかり身につける。時間がかかることもあるが、こうした努力が実力を高める。各回の講義の後に、十分に復習することが望ましい。			
事後学習・復習等	担当教員によるオムニバス形式の演習講義であるため、各回の講義内容を十分に復習し、知識を整理し定着を図るとともに、演習問題を解答できる力を養っておく必要がある。			
オフィスアワー	薬剤師教育研究部門：水曜日 17:00～19:00、木曜日 16:00～18:00、不在時の質問にはメール等で対応する。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で各領域の重点ポイントの演習を行う。
回	項目(領域)	内容
1～120	物理、化学、生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬治、法規・制度・倫理、実務	C1 物質の物理的性質、C2 化学物質の分析、C3 生体分子の姿・かたちをとらえる、C4 化学物質の性質と反応、C5 ターゲット分子の合成、C6 生体分子・医薬品を化学で理解する、C7 自然が生み出す薬物、C8 生命体の成り立ち、C9 生命をミクロに理解する、C10 生体防御、C11 健康、C12 環境、C13 薬の効くプロセス、C14 薬物治療（病態・薬物治療）、C15 薬物治療に役立つ情報（病態・薬物治療）、C16 製剤化のサイエンス、C17 医薬品の開発と生産、C18 薬学と社会、D1 実務実習事前学習、D2 病院実習、D3 薬局実習
講義・演習は1日4コマを次のように実施する。		
時限	内容（月曜日～木曜日）	
1	講義1	
2	講義2	
3	演習	
4	演習（小テストを実施）	
具体的な講義日程表（延べ日数30日間）は、別途配付する。		
授業時間：月曜日～木曜日、1日当たり4コマの演習を行う。このうち、授業数は原則2コマとし、課題演習を2コマ行う。また、課題演習の時間を利用して、毎日小テストを実施する。		

成績評価の方法	定期試験（総合薬学演習Ⅱテスト）を3回〔各345問〕実施し、その点数により評価する。
成績評価の基準	教務規程に準拠し、第1回及び第2回の総合薬学演習Ⅱテストの平均正答率が65%以上、または第3回の総合薬学演習Ⅱテストの正答率が65%以上を合格とする。
教科書	原則、プリントを使用する。
参考書など	講義中に適宜提示する。